

令和4年3月31日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号  
管理機関 福井県教育委員会  
代表者名 教育長 豊北 欽一

年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和3年6月30日(契約締結日)～ 令和4年3月31日

2 管理機関

①管理機関(市区町村・都道府県)

ふりがな 管理機関名	さかいし そうごうせいさくぶ 坂井市 総合政策部
代表者職名	次長
代表者職名	三上 寛司

ふりがな 管理機関名	あわらし そうぞうせんりゃくぶ せいさくこうほうか あわらし 創造戦略部 政策広報課
代表者職名	課長
代表者職名	江川 嘉康

②管理機関(産業界) ※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな 管理機関名	かぶしきかいしゃ ふくいぎんこう さかいちょうしてん 株式会社 福井銀行 坂井町支店
代表者職名	支店長
代表者氏名	竹島 久敬

③管理機関(学校設置者)

ふりがな 管理機関名	ふくいけんきょういくいいんかい 福井県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	豊北 欽一

3 指定校名

学校名 福井県立 坂井高等学校 学校長名 内藤 俊治

#### 4 事業名

学科横断型DX研究による次世代産業人材育成体制の構築

#### 5 事業概要

産官学が一体となって、次世代地域産業人材の育成体制を構築する。デジタルデータを活用した産業社会の急速な変革を見据え、地域の企業をよりよく知るために、1・2年全生徒に企業訪問・出前授業を行い、「ふくい産業」の学校設定教科を軸としたカリキュラム開発を進める。観光およびデザインの高度な専門知識を有する産業実務家教員による授業や企業研修を通じて、「ふくい産業」の現状、課題、展望を学年進行で学び、自分たちの学校での学びで地域にどのようにつながれるか、そして貢献できるかを考える。企業が抱える課題を主体的に考え、地域貢献を視野に入れた課題研究へと発展させる。また、企業の最先端の施設設備での研修や実習の機会を設け、生徒自らが新しいアイデアを発見できる体験を充実させる。

学科を横断した企業研修も行き、協働型の探究活動を推進し、起業家精神の育成も図っていく。また、企業、自治体、大学等の連携を強化し、生徒が地元に着定するしくみを構築する。卒業生が社会での学びを学校に環流させる双方向の連携システムの構築にも取り組む。

#### 6 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目  開設している ・  開設していない
- ・教育課程の特例の活用  活用している ・  活用していない

#### 7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
竹島 久敬	福井銀行坂井町支店 支店長
三上 寛司	坂井市総合政策部 次長
江川 嘉康	あわら市創造戦略部政策広報課 課長
山崎 良成	県教育委員会 副部長（高校教育）
半澤 政丈	坂井市商工会 会長
赤尾 政治	あわら市商工会 会長
大久保 貢	福井大学 地域創生推進本部 教授
森川 峰幸	福井県立大学 創造農学科 教授
内藤 俊治	坂井高等学校 校長

#### 8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
三村 友男	前田工織株式会社 常勤監査役
市橋 憲	株式会社福井銀行坂井町支店 支店長代理
斉藤 立海	坂井市総合政策部企画政策課 課長補佐
藤田 由紀	あわら市創造戦略部政策広報課 参事
浅原 雅浩	福井大学 教育学部 教授
中村 幸弘	県立大学 経営企画部 連携・研究課 課長
江川 誠一	福井大学 国際地域学部 非常勤講師
橋本 洋子	パレットデザイン代表 仁愛女子短期大学 講師
大正 公丹子	福井県教育庁高校教育課 参事
内藤 俊治	坂井高等学校 校長
島田 克久	坂井高等学校 教頭

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（2021年6月1日～2022年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員会			ビジョン策定				中間報告				年度成果の検証	
事業推進委員会			具体的事業内容策定				進捗状況報告			年度報告と次年度課題の検討		

(2) 実績の説明

それぞれの委員会を催す。その際のアドバイスを実施校と共有し、意見交換をしながら事業を進めた。管理機関としては、実施校の事業推進に支障のないように県独自の「魅力化発信事業」と絡め、予算措置を講じることや、令和3年度から導入した「ふくい産業」を来年度の1年生に学校設定教科として設定するための試行を行った。様々な企業人の生き方、ものづくりの考え方等を企業への訪問研修や出前研修を通じて体得することによって、ふるさと福井への貢献並びに自己の well-being を達成してくれる人の育成を目指している。

年度途中から始動となり、学校における業務分担にも負担をかけたが、今後の持続可能性を考えて、教員の人事面に関する配慮をしていきたいと考えている。

この事業と繋がった県独自の支援としては、魅力発信事業を効率的に融合させていきたい。

4年目以降もこの事業がパイロット事業となり続けるために、予算の確保だけでなく、企業、市町との協働によるカリキュラムマネジメントを考えていきたい。

10 事業の実績

(1) 実施日程

課題項目別実施期間

業務項目	実施期間（2021年6月1日～2022年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学校教科・授業												
ふくいの産業	専門の授業内で LIVE 視聴					専門の授業内で LIVE 視聴				専門の授業内 でLIVE 視聴		
生徒の思考力を育む 授業改善	全教科、全科目での生徒の思考力を育む授業改善											
各コース企画研究												
地域の特産品開発	フリーズドライ装置等を活用した商品開発、地域と連携した商品開発											
地域の絶滅危惧種の 保全活動	エチゼンダイモンジソウ、アゼオトギリに対する保全活動、勉強会、発表会の実施											

ふるさと納税返礼品の開発と拡充	ふるさと返礼品(梨等)の育成管理	ふるさと返礼品発送	次年度に向けた改善検討
サブスクリプションへの応用	農業生産物や食品加工品のサブスクリプションコマースでの販売の計画と対応アプリや広報計画の立案		
ドローンの研究	ドローンの基本操作の習得	中型機の安全飛行の知識習得	操縦技量確認と取扱従事者認定 課題の検討
ドローン技術の活用への検討	ドローン操作技術は工業のコースで始めるが、農業や商業のコースへの活用や連携を計画していく		
地域エネルギー資源の開発	温泉熱を利用した発電検討	温泉熱利用発電の学 科・教科横断での協働	次年度に向けた改善検討
校内外イベントの活用と発信	ファッションショー衣装製作(4~12月)と製作発表会(1月)月 Sea級グルメイベントを活用したレシピ開発		
観光資源の発信	地域観光資源の発掘・フィールドワーク	観光資源PRの マージナル作成	コマーシャル発信
学校全体が行う基幹部分			
産業実務家教員による授業(観光・経営・まちづくり)		9月~2月	
産業実務家教員による授業(表現と伝え方)		9月~2月	
企業訪問研修		11月~3月	
企業出前研修		2月2日予定していたが中止	
グローバル研修		2月と3月で計画したが中止	
企画研究・課題研究発表会	令和4年2月10日実施 全8コース生徒運営により実施 発表者: 3年各コースの代表者 視聴者: 1~2年生 運営委員・推進委員にはZOOMで配信		
振り返りと発表	令和4年3月16日クラス別に実施(今までの振り返りシートを配布し参考にして、評価グループが作成したループリック評価をグループフォームで行う。		
根幹部分			
「学びの姿勢」坂井高校スタンダードの構築	本校で生徒が専門的な学びを深めるには、その土台となる「学びに向かう力」を醸成することが重要である。そのための力について具体的目標を生徒に提示し、実施していく計画を策定した。		
評価	事業を遂行による生徒の変容を測るためループリック評価を年度末に実施した。今後のループリック評価における学校改革と位置付けている。		

広報	「マイスター通信」の企画・作成を行う。令和3年10月1日に第1号を発行して以後合計第5号までを発行した。事業終了後も広報の大切さに鑑みて持続可能をも模索する学校改革を担う。
実践報告書の作成	年間を通して活動の記録と3月末を目途に報告書の作成

## (2) 実績の説明

本事業は、本年度からの坂井高校に赴任した職業高校は初めての再任用教諭を主担当（プロデューサー）に、各コースで専門的な取り組みを実践する教諭らを副担当に決めて準備を始めた。この主担当教諭は、前任校で「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の経験があり、それを活かして事業概要を把握するとともに、学校の状況や実情等の把握に努め、本事業が正式に指定された5月中旬以降に運営するための組織づくりの立案を行った。また、管理職や各コース主任を含めたマイスター・ハイスクール事業プロジェクトチームをつくり計画内容については共通理解を得ながら進めていった。

6月からは、事業の全体像並びにどのように3年間あるいはそれ以上の事業の継続ができるかを模索する中で、本校での勤務経験が長い教諭をアドバイザー・ディレクターとして加え、8つのコース長と意見交換や協議を進めた。その結果、成果概要図にある「生徒活動概念図」を作成し、この事業全体をイメージできるようにした。

9月にはCEOや産業実務家教員も本格的に始動し、コース長一人一人と対話を持ちながら、訪問企業の選定、マイスターにおける産業実務家教員の授業の在り方を探った。基本には、「探究」と「生徒のwell-being」がある。CEO、産業実務家教員2人、事業プロデューサーの計4人をコアチームとして企画運営を実施した。産業実務家教員の2名は、授業だけでなく、企業との交渉、この事業の在り方に及ぶ広範囲な協議に参加し意見を出してもらうとともに、CEOとともに様々な学校行事にも参加してもらった。

主担当（プロデューサー）は、学校状況の把握も進み、来年度の計画にも積極的に取り組んでいる状況である。その中で、8コースあることで各コース先生方が求めている生徒像や理想の範囲が違うことや8コースの特性により意見をまとめることに苦慮することにも直面してきた。この事業を推進する難しさとして総合産業高校であるため共通理解が得にくいという部分もあるが、反面、コースを横断した取組ができるメリットがある。少しでも多くのコースの横断的な実践やカリキュラムマネジメントの取り組みにより多様性を重視できる総合産業人としての資質を身につけられるように考えていきたい。そして、その取り組みはこの事業の成果に大きくかかわってくると考えている。

以下、(1)に示した取り組み内容について記述する。なお、各コースの企画研究については年度末に作成する実践報告書（冊子）を参照されたい。

カリキュラム開発に関しては、今年度から県教委の事業「ふくいの産業」を1年生の専門科目の中で実施してきたが、来年度からは、これを進化させ学校設定教科として1年生に導入を決めた。今年度の「ふくいの産業」は福井県の地元企業の経営者等のオンライン講話を見て、その感想等を書く内容であった。来年度はこの1単位の学校設定教科の中で、本年度と同様の内容に加えて、産業実務家教員の授業やライブラリ視聴後の生徒によるディスカッション、実際ライブラリに登場する人物を招いて対話する等のアクティブな内容を計画している。

今年度は9月から産業実務家教員（福井大学と仁愛女子短期大学の講師の先生）の授業を始めた。地域社会との関わりを意識づけるため「高・大・社の接続、観光とその経済効果、そのための地域との協働」を目指した授業と、発表するスキルを上げるため「『伝わる』状態を確

認し、デザイン手法の一つの視覚を活用した『伝わる伝え方』の授業を行ってきた。これは来年度の1年生への1単位の導入や2年生への導入の試行を兼ねての実施である。また、3年生についてはCEOからの「社会人になるにあたり心構えの」講話も実施した。

カリキュラム開発について、さらに令和5年度からは、2年生にも1単位学校設定科目「ふくいの産業の課題と展望」の導入も模索しており、教育課程委員会での検討を始めている。

学校全体が行う基幹部分についてはコアチームを中心に企画し実施してきた。

企業訪問研修は、10月に計画し各企業との調整を行い、11月から実施した。地域の課題と地元企業の価値を理解することを目的として行ったが、1月以降の4社については新型コロナの影響により中止となった。実施できたコースの訪問の感想を見ると、企業が新しいことへの挑戦や、改善への努力をしていることに気づけた生徒が多く、今後の個々人の研究につながっていくことを期待している。

企業出前研修は2年生対象に企業の方から「最先端技術やオンリーワンの技術の紹介、その魅力、社会への貢献、誇りそして課題と展望」に関する講話を計画したが、これも新型コロナの影響で来年度に延期することになった。

「グローバル研修」は学校や地域企業とは別にグローバルな観点から社会や職業を見つめるために県外等の大規模最先端の工場見学等を行うものとして計画した。地元だけではなく幅広い知見に触れ学習意欲を喚起することや先駆的な見方考え方も育みたい意図があったが、今年度の研修は新型コロナ感染拡大の影響で中止となった。

令和4年2月10日（木）にはMH企画研究・課題研究発表会を実施した。コロナ禍でもあり会議室から3年生のプレゼンテーション発表を各教室や外部の関係者に配信する形式で行い、全コースの代表的な研究内容を1、2年の全生徒が視聴した。1、2年生が今後の研究につながる気づきを得ることや今後の学科を横断する研究、本事業の一層の進化への期待をしている。生徒からの意見や感想を委員の方々にも報告し、ご意見もいただいている。とても好評であった。

事業の土台（根の部分）についてはそれぞれ校内で6名程度の担当者を決めて進めている。

「学びの姿勢」坂井高校スタンダードの構築については、本校で生徒が専門的な学びを深めるには、その土台となる「学びに向かう力」を醸成することが重要であると考え、「坂井高校スタンダード」は、生徒がマイスター・ハイスクール事業で目指す人材像に近づくための羅針盤として設定し、生徒の学びを確かなものにするをねらいとして考えたものである。

- ①自主 自ら判断し、主体的に行動できる力
- ②協働 互いの能力や特性を尊重し、ともに高め合う力
- ③知識・技能 技能・技術習得の基礎となる知識・思考力

①～③について具体的目標として生徒に示し、取り組みやすく評価しやすいもので持続可能なものにしたいと考えている。現時点では計画段階であるが、来年度には生徒へも提示して共通理解を得て進めていきたい。

広報については、この事業は地域での学びの機会が多い。そのため広く地域の方に坂井高校の活動を知っていただき、地域魅力化のための声をいただくために、活動成果を「マイスター・ハイスクール通信」として作成してきた。令和3年10月1日の第1号から第5号までの発行をし、生徒の保護者並びに地域の中学生そして地域の方に配布しお知らせしている。また、この事業の予算での対応ではないが、この1年間の取り組みを映像資料として作成し、今後の広報に活用することを進めている。

評価については、事業遂行による生徒の変容を測るために、ルーブリック評価を年度末の3月16日に実施した。この内容の集約はこの書類の提出段階ではできていないが、実践報告書

には掲載する予定である。この事業で生徒が変わることで教員が変わり、学校改革に結びつくことを期待している。

最後に、事業の進捗管理や検証・評価に関しては、運営・推進委員会を定期的に関き報告するとともにご助言やご指導をいただいている。今年度は第1回を7月8日に実施し、計画内容を提示した。第2回は11月17日に実施し、中間での活動の進捗状況をお伝えした。第3回について年度末に実施を計画したが、新型コロナの感染拡大防止の観点から中止し、来年度の第1回に今年度の振り返りを組み込むことにしている。また、伴走者の山本氏との打合せも月に1回の頻度で定期的実施し、進捗状況や実施内容に関してアドバイスを受けている。

## 1.1 目標の進捗状況、成果、評価

コロナ禍の影響で、企業訪問研修は、11件の予定の中6件が中止、企業出前研修は8コースすべてについて「ふくい産業」を代表する方々をお招きして行う予定であったが、中止となった。

ただ、5つ行うことができた企業訪問に関しては、生徒からの評価が非常に高かった。振り返りシートの内容から、生徒が刺激されていることを見ることができた。この企業訪問研修は、就職活動における企業訪問とは一線を画しており、「産業としての役割、福井における貢献、学んでいることとのつながり、自分は何ができるか、課題は何か」のテーマで企業へも要請し、生徒へもその視点で訪問や講座を聞くように促している。その意味で、生徒が訪問によって「気づき」と「夢」を持ってくれたことは収穫である。

様々な評価シートや生徒の受け止め方に関しては、「実践報告書」に記載されている。

## 1.2 次年度以降の課題及び改善点

管理機関としては、指定校より報告は受けているにしても、現場の担当者とのコミュニケーションを増やしていきたいと考えている。全国との同じような指定校や実践校とは伴走者を通じてお知らせすることができているが、学校独自の課題に関して、現場を会議だけでなくそれ以外でもコアチーム等との対話を自分たちに何ができるかを考えていかなければならないと考えている。

CEOや産業実務家の先生は、他にも仕事を抱えている。初年度に比べて2年目の計画段階でも制約は多い状態になってきている。3年間はやっていただけにしても、4年目以降は県に財政面の応援をしていただきたいこと、その上で、企業人の講師を何人か確保できないかと考えている。企業訪問などの生徒移動の費用も大きく、持続可能なものとするための工夫が必要である。坂井市との連携も大切なことと考えているが、それに見合う、豊かな資質を持つ地域の産業人の排出を伴っていかなければならないし、この事業の「根」をしっかりと地域の信頼を得たうえで、「幹」「葉」をともにしっかりと育てていかなければならない。